

Global Active Learning 2024

Chuo University
Global FLP

目次

はじめに	Takeishi	1
現地スケジュール		3
Brandeis 3 年生・4 年生との交流	Sakura	4
Brandeis 1 年生との交流 & Harvard 訪問	Kana	6
Boston 大学合同授業	Kohei	9
Campus Tour in Brandeis University & Waltham	Aina	12
Sightseeing in Boston		14

はじめに

2024 年度は、怒涛のブランダイスの日々から始まった。日曜の夜中に宿に着くと、月曜は早朝から夜まで、火曜も早朝から夕方、そして水曜日も早朝から夜まで、ブランダイス大学で日本語学科の学生と交流、交流の日々だった。

こうなったのは、昨年度までの 4 年生との合同プロジェクトに加えて、今年は 1 年生の 4 つのクラスとの合同授業、3 年生との合同授業を加えてみたからだだったが、今年のグローバルアクティブラーニングの 4 人の学生は日本語と英語を上手く織り交ぜながらブランダイスの多様な文化的背景の、勉強熱心な学生たち、なぜか日本を愛してくれていて、学業で大変忙しいのにも拘わらず中大生のために時間を割いてくれた心優しいブランダイスの学生たちと、楽しく接し、交流していた。本当は、時差の負担という体力勝負もあったに違いないが、改めて若者は凄いと感じている。

木曜日はケンブリッジ市で MIT とハーバード大学を訪れ、本プログラムや FLP と似た、ハーバードの全学的な選抜プログラムである Social Studies の先生からレクチャーを受けた。

グローバルな現地体験とは、物理的にも日本という Safety Zone から抜け出す経験することだが、金曜日のボストン大学では、知的に getting out of your comfort zone という体験ができたのではないかと思う。4 人とも果敢に発言し、十分な意見交換を行うことができた素敵な忘れがたい時間だったと思う。当初、1 授業で 3 時間は長いという印象だったが、終わってみるとあっという間だった。

正味 1 週間の旅程に朝から晩まであまりにも学業が詰まっていたために、十分な観

光の時間が取れなかったかもしれない。しかし、学生 4 人、また、ブランダイスの学生の案内で街歩きをして宿に戻った 4 人は、みるみる日ごとに仲が良くなり、一種の「家族感」が増していくようだった。

帰国後、学生たちはどっと疲れを感じるだろうし、病気にならないかと心配している。それほどまでに詰め込んだこのグローバルアクティブラーニングの現地滞在が、振り返るとその甲斐があったと感じてもらえるような有意義な時間となり、各個人にとって何らかのきっかけとなればと心から祈っている。

2024.9.14

武石 智香子

Assembly 駅前の Montaje 内、242 号室にて

現地スケジュール

Sep 8, Sunday ボストン到着

Sep 9, Monday Brandeis University

10:00 - Brandeis Japanese Language students による Campus Tour

17:30~18:55 Joint Class JPAN120A

Sep 10, Tuesday Brandeis University

10:00-10:50 Section 1: Japanese Language 1 年生

11:15-12:05 Section 2: Japanese Language 1 年生

12:45-13:35 Section 3: Japanese Language 1 年生

14:15-16:00 駅前ピザ屋 AK

16:05-16:55 Section 4: Japanese Language 1 年生

夜 授業

Sep 11 Wednesday Brandeis University

9:52 Brandeis 学生の案内で Waltham ランチ ベトナム料理 Pho #1

14:30 - 15:50 JAPN105A (Golding 109) 日本語学科 3 年生 中野先生

15:50 - 17:15 JAPN105A の学生と交流 キャンパス内ダンキンドーナツ

17:30~18:50 Joint Class JPAN120A @ Shiffman 125, Brandeis University

Sep 12 Thursday Harvard University

Walking around at MIT

11:00 - 11:30 Visiting Social Studies @ Harvard

夜 授業

Sep 13 Friday Boston University

11:15 - 14:00 Joining the class on Sociology of Culture

Sep 14 Saturday Boston 市内

Boston History Tours with Brandeis students

Sep 15 Sunday ボストン出発

Communicating with Junior and Senior Students in Japanese Language Classes, Brandeis University

池田 さくら

現地 3 日目にあたる 9 月 11 日に、ブランダイス大学日本語学科 3 年生のクラスに参加した。敬語と、性による日本語の違いについて、日本人 1 人・学生 5, 6 人のグループを作り、講義を受けた。特に、敬語については、日本特有の「本音と建前」や「謙遜」と結び付け、他国の言語表現と比較したり、映画のワンフレーズを切り取ることで、理解を深めた。改めて日本語の特性に触れ、私たち日本人にとっても、沢山の発見があった。そして、グループで話し合う時間が多く設けられたが、留学生が非常に沢山の質問をしてくれた。例えば、「『わし』(高齢男性の主語)は本当に使いますか?」、「女性は『～よ』と言いますか?」、「日本に行った時、間違えて違うお店に入ってしまったのですが、どうすればよかったですか?」などなど、沢山の質問が寄せられ、留学生たちの日本に対する高い関心が伺えた。



そして、本科目のメイン、ブランダイス大学日本語学科 4 年生との交流も刺激的であった。後期科目グローバル遠隔ラーニングの準備となるべく、SDGs について話し合いを進めた。まず、各自興味のある SDGs のターゲットを 3 つ発表した後、同じ興味を持つ学生とディスカッションをし、グループ決めを行った。最終的に、“Climate Change”, “Inequality, Infrastructure, and Education”, “Gender”という 3 つのグループに分かれた。実際に会って話し合いをすることで、スムーズに進めることができた。後

期も、引き続き協力し合い、良いプレゼンテーションをできるように励みたい。そして、交流は、英語と日本語の二言語で行われたが、学生たちの日本語の流暢さに驚いた。私たちも、積極的に英語でコミュニケーションを取っていきたいと思った。



Japanese Language 1 年生との交流 & Harvard 訪問

鈴木 香奈

到着して 3 日目の 9 月 10 日は、Japanese Language 1 年生の 4 クラスに参加した。中大生 1 人とブランダイスの学生 4, 5 人のグループを作り、日本語で自己紹介を行った。1 年生のクラスは自己紹介程度の日本語しか学んでいなかったため、英語で日本文化、大学、日本語を学ぶきっかけなどについて話した。3 年生や 4 年生との交流では主に日本語で交流していたこともあり私たちが英語でブランダイス大学の学生と交流する機会でもあった。



どのクラスでも話題に必ず上がるのはアニメや漫画であった。アニメが身近な私たちよりもブランダイス大学の学生の方がはるかに詳しく、アニメや漫画が好きだという気持ちが日本語を学ぶ原動力になっていることを肌で感じた。

ボストンに慣れてきた 5 日目の 9 月 12 日、私たちは MIT、Harvard、Boston Public Library を訪れた。中央大学は理系と文系の学部のキャンパスが分かれていることもあり、研究室が並んでいた MIT の構内はとても興味深かった。



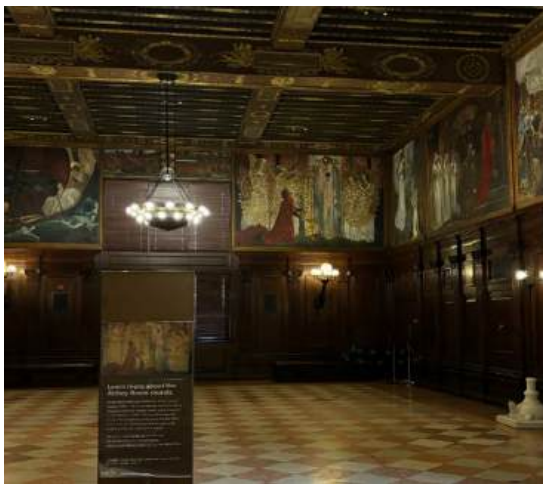
MIT の後はハーバード大学で社会学を教えているニコラス先生とお会いした。40 分程の授業であったが日本人とアメリカ人のふるまいの違いなどについてお話を聞いた。ブランダイス大学、MIT、ハーバード、ボストン大学の中で私たち 4 人の心に一番刺さったのはハーバードであった。レンガ作りの建物や広い中庭、教会など校内を回った。





COOP でグッズを見たり、大学内にある美術館にも行き、彫刻や絵画などを見て回った。

そのあとはアメリカ最古の公立図書館であるボストンパブリックライブラリーを訪れた。入り口はガラス張りで近代的だった。旧館はルネサンス様式で、宮殿のような豪華さに圧倒された。



Joint Class at Boston University

丸山 航平

6日目の9月13日、私たちはボストン大学へ行き、リア・グリーンフェルド教授の社会学の授業に参加させていただいた。授業ではまず、“envy”と“jealous”の二つの感情を日本人はどのような状況で抱き、またそれをどのようにして乗り越えるのか説明するため、前日に準備をした寸劇を用いたプレゼンを行った。二つの感情についてBUの学生と共感する部分もあれば異なる感じ方や対処法がある部分もあるということを知った。また、日本人の持つ本音と建前の考え方を説明する場面もあり、お互いの価値観の違いについて理解を深めることができた。次にグリーンフェルド教授が著した絵本を学生に読み聞かせてもらい、その内容についてディスカッションを行った。絵本では、様々な動物のキャラクターが登場し、それぞれが支配者やマスコミ、市民などを表していて、恐怖の支配者の登場による市民の混乱と支配者が倒れた後の市民を描いたストーリーであった。教授からの問いはその物語においての悪者はどのキャラクターかというものであった。私たちはそれぞれのキャラクターがどのようなものの象徴であり現実世界ではどのようなケースに当てはまるのか話し合い、この物語における悪者はだれなのかそれぞれの考えを発表した。しかし、ある一つの発言によりグリーンフェルド教授と我々日本人学生の間に自由や正義といった価値観において大きなギャップがあることが分かり、図らずも教授側に大きな問いを投げかけることとなった。約三時間の授業の間、非常に難しいテーマについて英語で意見を交わすことは、私たちにとって今までにない体験であり大変なことであったが、間違いなく貴重な経験でありグローバルな視野を身に着けるうえで大きな糧となった。また、授業に参加したBUの学生や他の先生達は様々なバックグラウンドがあり、彼らの話を休憩時間や授業後に聞くことも、とても興味深く刺激的であった。BUでの経験は短い時間ではあったが今回の研修の中でも特に学びが多く、自分の日本人としての価値観も大きく変わったように思えた。



Campus Tour in Brandeis University & Waltham

丸茂 愛菜

今回のプログラムでは、Brandeis の学生の方々に本当にお世話になりました。特に、後期から一緒にプログラムを行う方々には、授業の時間以外でも沢山交流しました。

宿についた翌日の 9 月 9 日は、朝から Brandeis の学生の方たちが大学の最寄り駅まで私達を迎えに来てくれて、キャンパスツアーが始まりました。中大の生徒一人につき 3 人ほどがついて、キャンパス内の様々な場所を案内してくれました。Brandeis 大学の敷地は広くてたくさんの建物があり、私を案内してくれた二人は学内のカフェテリアや図書館や学生寮や古いお城を見せてくれました。キャンパス内は自然も豊かで、芝生の上のベンチで、学生たちがのんびり過ごしているのも見ることができました。キャンパス内の案内が終わって全員が合流した後は、学内の Einstein Beagle でお昼を食べました。すごくおいしかったです 🍔❤️ お昼の後はレクリエーション室に行ってみんなでビリヤードしたりチェスをしたりしました。



9 月 11 日の水曜日も、Brandeis の方たちが、Brandeis 大学の隣駅の Waltham の街を案内してくれました。皆さん忙しい中時間を割いて私達に町を案内してくれることがすごく嬉しくてありがたかったです。Waltham Common という公園を案内してもらった後、Waltham の図書館に行って、CD のコーナーで好きな音楽について話し合いました。その後ダンキンドーナツとスーパーにいったお菓子を買って、Waltham Common でピクニックをしました。みんなドーナツとブラウニーを食べた後、Brandeis の Fiona さんのバイト先、Kung Fu Tea というタピオカ屋さんに行きました。

なんと、Fiona さんが私たちにタピオカをプレゼントしてくれました!! 🍌🥤 すごくおいしかったです。その後、Brandeis の皆さんおすすめのフォーのレストランでお昼を食べました。Brandeis に留学している元中大生・鶴田さんも合流して、名物のフォーを食べてたくさんおしゃべりして、すごく楽しい時間を過ごせました。



Sightseeing in Boston

● ロブスターロール、イタリアン、ジェラート

9月13日の夜は、Brandeis大学の学生である通称るいさんとCameronとともに、Bostonのdowntownにあるレストランでロブスターロールを食べた。ロブスターの身をバターで炒めて、ロブスターのみそ的なソースをかけながらパンにはさんで食べるものだ。これが非常においしかった。ロブスターの身のコクとバターの豊かな香りが合わさり、すごく濃厚な風味で食べ応えがあった。普通のロブスターよりも安価で美味しいので、今後の学生にもぜひおすすめしたい。

翌日14日は、お昼にるいさんとCameronさんおすすめのイタリアンレストランに行き、その後ジェラート屋さんに行った。どちらもとっても美味しかった。Bostonの港の近くのレストラン街にはイタリアンレストランが多く、どの店も非常ににぎわっていた。私たちはレストランの二階の窓際の席で、美味しい前菜とパスタを楽しんだ。結構量が多かったが、とても美味しかったので完食できた。その後、ジェラート屋さんにデザートを食べに行った。日本にはない珍しいフレーバーが多く、試食しまくってしまった。みんなのジェラートを味見させてもらったり、店の前で写真を撮ってもらったりした。すごくいい思い出になった。



● ボストンティーパーティー

9月14日の午前中は、るいさんとキャメロンと一緒にボストン茶会事件の記憶を伝える博物館へ行った。博物館は当時の建物と船が再現されていて、入場すると当時の衣装を着たスタッフの人たちによって案内された。また、寸劇や映像を見たり様々な展示を通して、イギリスへの不満がたまっていたアメリカの人びとの様子や独立戦争までの流れが分かるようになっていた。アメリカ独立

の歴史を追体験することができ、とても面白かった。そして、船の甲板に出ると紅茶の箱が置いてあり、当時のボストンの人々のように海へ投げ入れことができるようになっていて、私たちも体験してみた。ほかの観光客の人たちの中にはかけ声をあげながらのりのりで海へ放り投げている人もいた。船を出た後、隣にあるおみやげ屋へ行き、紅茶やステッカーなど色々なお土産を購入した。



● クインシーマーケット

9月14日の午後はクインシーマーケットを訪れた。広場では大道芸が行われていて、多くの人が集まっていた。クインシーマーケットは通路の両側にお店が入っていて、ロブスターロール、クラムチャウダー、ピザベークルなど様々な食べ物が売られていた。



クインシーマーケットの外には雑貨屋さんやお土産屋さんなどもあった。歩きながらルイさんとキャメロンと授業の話から好きな食べ物、飼っていた動物の話などいろいろな話をした。



9月13日、私たちは、Museum of Fine Arts Bostonを訪れた。展示品の美しさ、そして、規模の大きさに圧倒され、まるで夢のような空間だった。建物は一から四階まであり、それぞれのフロアが非常に広く、6時間以上かけても回り切れなかった。しかし、奥に行けば行くほど人が減り、ひとり沢山の美術品に囲まれるため、本当に別世界に迷い込んだみたいだった。絵画や石像、硬貨、宝石はもちろん、ミイラや楽器、武器や食器類など、大変種類が多く、豪勢に展示されていた。また、音声やビデオで作品が説明されていたり、虫眼鏡で拡大して硬貨の細部まで鑑賞することが出来たり、古代中国の石像展示室に入れば石の匂いが広がる涼

しい空間になっていたり、視覚だけではなく、五感で楽しむことができた。

各フロアは、小さな部屋のような空間で区切られているが、部屋に入る度に、展示品の魅力に圧倒され、驚きの連続だった。特に、衝撃を受けたのは、写真のヨーロッパ絵画の展示室である。高い壁にも関わらず、部屋の全面に大きな絵画が展示されており、360度絵画に囲まれた、夢の空間そのものであった。ひとつひとつの絵画に、詳細な説明書きがあることにも驚いた。また、ミイラについても、アニメでしか見たことがなかったため、実際に鑑賞することができ、非常に面白かった。想像よりも大きく、そして、細



かい絵が描かれており、当時の技術の高さに魅了



された。この点については、ミイラ近くに展示されていた、同じくエジプトの展示品にも共通

していた。動物や人間、複雑な模様などを、小さく、繊細に描いており、大変魅力的であった。加えて、棚や椅子など、日常生活では当たり前のものが展示されている点も、珍しく、興味深かった。特に、椅子につ



いては、身分によって、背もたれの高さや模様、脚の形状、腕置きの有無など、違いが沢山見られ、比較をするのが楽しかった。



王室の再現もたびたび見られ、当時の生活を想像することができた。さらに、それぞれのフロアの奥には、特に小さい展示室があり、教会のような造りになっていたり、壁一面にステンドグラスが広がっていた。思わず声が出てしまうほど魅力的な空間だった。そして、期間限定

で開催されていたダリの展示や、モネの作品を鑑賞できたことも、素晴らしい体験であった。両者とも教科書でしか見たことがなかったが、細部や色の表現までも鑑賞できた。最後に、絵画や石像エリアには、非常に大きな作品が展示されていた。日本ではありえない大きさだったため、非常に驚いた。

作品を見ていて、思わず声が出てしまうと、"Is it so beautiful, isn't it?"と、現地の人から声を掛けられ、コミュニケーションが取れたことも、良い経験であった。まだ見れていない作品も沢山あるため、もう一度訪れたいと思う。

